

民具情報の構造と組織化に関する研究

八重樫純樹

要旨

本論文はヒトが活動する社会の全分野、そして時系列の中でヒトが現社会で活用しなくなった道具である民具に関する情報構造と、その民具情報の組織化について考察するものである。

前半は民具情報の構造について、それが作成されるまでに至った空間。何らかの目的・用途で作成され、利用され、廃棄されるに至った空間。それが何らかの理由で廃棄され、再び発見されるに至った空間。後世に残すべき資料として同定され、採集・保存される経過の空間。この民具の経てきた時系列における情報を基にその情報構造について考察する。

中ほどでは、いくつかの民具収蔵資料館の目録記述の比較（前半の民具情報構造と各機関の目録記述）を行い、将来、各機関で蓄積され、公開されてゆくであろう民具データベースの組織化について考察する。

まとめの最後では、現在社会で採集される民具にもいくつか不適合の部分も見える文化庁推奨の“民俗分類”について、諸問題を提起するとともに、最近、我が国の“民俗分類”をベースに韓国文化と現代の韓国社会への適合をはかって再設定した韓国の『博物館遺物管理電算化のための国家標準化』分類体系概要、『韓国遺物管理電算化のための国家標準』の概要（資料2a・b参照）について紹介し、民具情報の国際化・共有化のため、我が国の“民俗分類”の在り方について触れてみる。

1. はじめに

我が国で博物館等の文化財資料研究・所蔵目録管理等へのコンピュータ活用の研究が開始されたのは1970年代後半から文部省管轄の国立民族学博物館の開館以来である。以降、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、そして文化庁管轄の東京国立博物館や地方・私立博物館で広く応用されるに至っている。主には各機関の収蔵資料目録情報管理のためである。当初は、機関単位での目録記述情報が主であったが、現在ではパソコン、インターネット、デジタルカメラの急速な普及で、資料画像情報の掲載や機関間の情報共有化も1990年代に比べてごく少ない予算で構築可能となってきている。

しかし、技術が普及した現在においても博物館・資料館・美術館等における収蔵品管理の問題は未だに①資料目録情報（メタデータ：データ〈資料〉のためのデータ）記述作業、②その資料目録情報のデジタル化作業、そして最近においてはインターネットを介しての博物館・資料館・美術館の間の収蔵資料情報共有化は社会的必然ともなっている。さらにインターネットによる情報共有化の国際動向をみると、分野横断的（博物館、図書館、文書館、考古学機関等）かつ国際的な共有化の方向にある。このためには③資料目録情報の互換性そして標準化が大きな課題である。特に我が国においては資料目録情報の互換性と標準化の課題は1990年代以降、現在においても解決されていない。①、②は個々の機関内作業の合理化や経費等で解決可能であるが、インターネットが世界的に普及してしまった現在においては、③は要となる課題である。

以降、本論文では民具情報を、考古資料情報、歴史資料情報等の課題も含めて、上記視点で考察してゆくものである。

2. 民具情報の空間モデルを介した情報構造化の考察

1) 一般博物館資料の経緯空間モデル（構造化）

ここでは博物館資料の経緯してきた時系列の空間を基軸に、資料に内包され得る諸情報について考察する。具体的に現在において資料そのものから抽出され得る情報、時間経過あるいは物理的消滅で抽出・復元不可能な諸情報等、資料によって異なるが、ここではモデルとしてそれらの情報集合と項目について検討を進める。

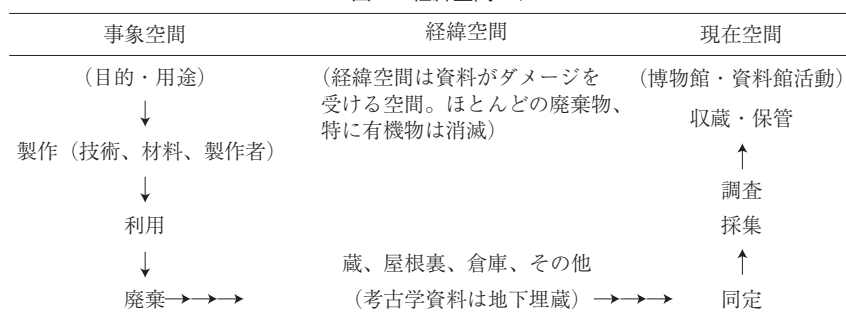
筆者は一般博物館資料の経緯空間モデルとして（文献（5））図1のように考えてきている。

- ・事象空間：資料が製作され、利用された空間
- ・経緯空間：資料が廃棄され（あるいは利用されなくなった）、保存・収納されていた空間
- ・現在空間：資料が採集され、調査され、保存機関（博物館等）で正式に収蔵されている空間

2) 民具の空間モデル（構造化）

民具の情報においては図1における事象空間における“製作”、そして“利用”そのものが研究課題でもある。また、

図1 経緯空間モデル



民具として、事象空間で目的・用途に沿って“その民具”が製作・利用されるに至るまでの“由来”という歴史的空間の設定も必要であろう。たとえば、煮炊きする鍋は、縄文時代には土器であり、斧の素材は石であった。これは素材の歴史的展開によって変化してきている。また、ほとんどの工業用具、医療用具や自動車等のほとんどは、もともと輸入品から派生したものである。この歴史的空間は明白白の民具（比較的近年に発生した民具）も存在するが、農具や生活用具等、長年にわたり使用され続けてきた民具は関連分野（歴史学、貿易学、建築史学、考古学等）との学際共同研究が必要であろう。

以上をモデル化すると、図2となる。

3) 民具の巨視的情報区分

民具情報について、「図2 民具の経緯空間モデル」から以下考察をすすめる。ここで民具情報として各空間に必要な情報は、歴史的な“時間”情報、場所としての地理的位置の“空間”情報（地域名、住所、座標値〈現在においては座標値は必須事項〉）、そして民具に関連した“ヒト”情報である。各空間において、時間・空間・ヒト情報において必要かつ採集・抽出可能な情報の精度は異なるものとする。

(1) 現在空間の情報

- (a) 収蔵・保管情報（保存機関も含め）
- (b) 民具そのものの現状調査情報（寸法・重量・形態・状態・数量・画像等：調査者）
 - (b)-1 その他、資料等の所見等
- (c) 採集情報（時間、空間、寄贈者・保管者・保管機関等：採集者）

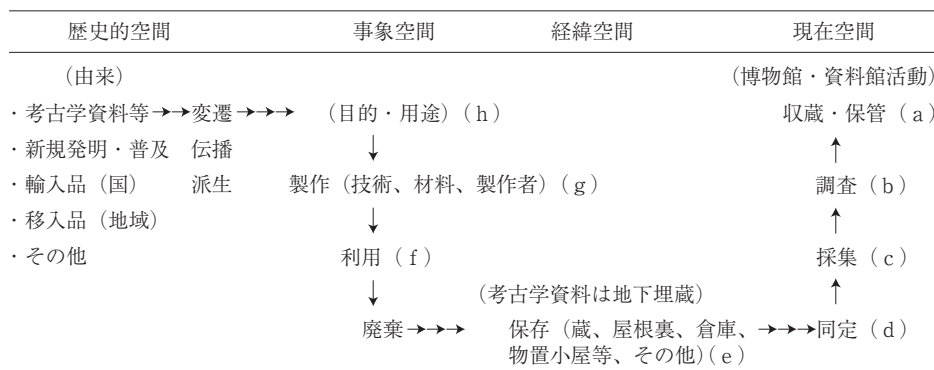
- (d) 同定
- (2) 経緯空間の情報
 - (e) 保存場所（蔵、屋根裏、倉庫、物置小屋等：時間、空間）
 - (e)-1 保存者、保存機関等
 - (e)-2 その他、所見等
- (3) 事象空間の情報
 - (f) 利用（利用者、実利用目的・用途、利用方法：時間〈マクロ〉、空間）
 - (f)-1 利用等に関する所見等
 - (g) 製作（材料、技術、製作者、製作場所：時間、空間）
 - (g)-1 製作、技術、材料等に関する所見等
 - (h) 目的・用途（民俗分類）
 - (h)-1 目的・用途等に関する所見等
- (4) 歴史的空間の情報
 - (4)-1 社会的利用の開始時期
 - (4)-2 発生の起源（民俗分類をベースに：太古から〈時代・時期、空間〉、輸入〈国・時間〉・伝播〈地域・時間〉、新規発明〈発明者：時間、空間〉、派生〈何から：時間、空間〉、その他）
 - (4)-3 変遷・伝播・派生の概要
 - (4)-4 その他、所見等

3. 民具情報の記述に関する比較と考察

1) 民具情報の抽出・記述問題

2章で民具にまつわる諸情報の集合セットについて考察したが、現実の民具の情報記述の可能性についてはいろいろ問

図2 民具の経緯空間モデル



題があるものとする。新規採集の民具については、少なくとも2章、3)、(1)の(a)(b)の現在空間の各項目への記述は可能であろうが、採集者と調査者不明あるいは不在の時間を経ってしまった民具については、民具の物理的情報(寸法、重量、形態、状態、数量、図像等)の記述以外は困難で、2章、3)、(2)の経緯空間は不明、重要な2章、3)、(1)(d)同定、(c)採集情報および2章、3)、(3)の事象空間の(h)目的・用途は相当の民具への専門知識が必要であり、場合によっては何人かの民具研究専門家との協議や、専門書の調査が必要となろう。また、2章、3)、(3)(g)の製作に関しても同様な問題が発生するものと思える。2章、3)、(3)(f)の利用に関しては新規採集資料においても事象空間がはるか昔の民具については情報抽出は不可能か相当な困難があろう。さらに、2章、3)、(4)の歴史的空間の情報については研究そのものであり、解決不能な民具が多くを占めるであろう。

2) いくつかの民具台帳・目録記述項目情報

ここでは4機関の協力を得て行った比較であり、我が国の民具管理機関全体の民具記録情報を整理したわけではないが、少数の機関の民具の目録情報とあるいは台帳記録用法に共通している性質があるものと考え、比較を進める。4機関をA、B、C、Dとする。

● Aの目録情報 [鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵目録：参考文献(1)、(2)、(4)]

①資料番号、②資料名、③数量、④使用地あるいは採集地、⑤計測値(寸法)、⑥受け入れ年・方法、⑦台帳番号、⑧写真資料

● Bの目録情報 [琵琶湖水系漁撈習俗資料(1)：参考文献(9)]

①資料番号、②受け入れ番号、③民俗分類、④資料名、⑤点数、⑥使用地あるいは採集地、⑦法量(寸法)、⑧部位の名称・素材・寸法等、⑨重量、⑩所見(使用年代・使用制限・使用方法・使用年代・資料状況等の記述)、⑪写真・図版

● Cの台帳記述情報(川崎市市民ミュージアム台帳)

①資料番号、②保管場所、③受け入れ先・受入日・受け入れ区分、④資料名、⑤資料の摘要(所見)、⑥民俗分類、⑦使用年代、⑧形態(寸法)、⑨材質、⑩容器・付属品、⑪資料状態・特記事項、⑫図版・写真

● Dの台帳記述情報(柏市吉田邸民具調査情報カード：【資料1】)

①民具番号、②収納場所(詳細：収納箱・収納物番号)、③寄贈目録(受け入れ)、④入手方法、⑤由来、⑥資料名(一般名称・地域名称)、⑦調査者メモ、⑧分類(用途分類〈民俗分類〉・機能分類)、⑨使用年代、⑩寸法・重量・容量、⑪形式・収納・所有数、⑫材質(植物・土石・金属・動物・合成樹脂・繊維：選択式)、⑬表面仕上げ(選択式)、⑭資料情報、⑮資料状態、⑯使用者、⑰使用地、⑱使用年代、⑲製作者、⑳製作地、㉑製作年代、㉒用途(ハレ、ケ)、㉓併用具、㉔使

用方法(いつ、どこで、だれが、どのように：備考)、㉕燃料、㉖動力、㉗保存・修復関係情報、㉘資料評価情報、㉙図版・写真

3) 記述項目の整理と比較

ここでは、図2における現在空間、経緯空間、事象空間との対比で比較考察を進める(歴史的空間については資料研究そのものでありそうであり、上記A、B、C、Dの各項目にも無いので、ここでは踏み込まない)。

(1) 現在空間の情報

(a) 収蔵・保管

A ①・⑦・⑧、B ①・⑪、C ①・②・⑫、D ①・②・⑲・⑳・㉑

(b) 現状調査

A ⑤、B ⑦・⑧・⑨・⑩、C ⑤・⑧・⑪、D ⑦・⑩・⑪・⑭・⑮

(c) 採集

A ③・④、B ②・③・⑤、C ③・⑩、D ③・④・⑤

(d) 同定

A ②、B ④、C ④、D ⑥

(2) 経緯空間の情報

(e) 保存

D ⑤

(3) 事象空間の情報

(f) 利用

A ②、B ③・④・⑩、C ④・⑤・⑥、D ⑤・⑥・⑧・⑨・⑯・⑰・⑳・㉑・㉒・㉓・㉔・㉕

(g) 製作

B ⑧・⑩、C ⑨、D ⑯・⑰・⑱

(h) 目的・用途

B ③・⑩、C ⑥、D ⑧

4) 目録・台帳記述情報の考察

(1) 項目についての比較考察

Aは図録の目録情報であり、A⑦のように資料記述台帳は別個にある。当然そちらのほうにはさらに資料管理として、また資料を通した民俗研究のための諸情報が記述されているものとする。

Bはデータベース情報であり、B①の資料番号を介した台帳には、A同様に詳しい情報が記述されているものとする。またBには民俗分類が3段階で記号化されている。文化庁推奨の民俗分類は記号化・標準化されていない。各民具管理機関では個別に(ローカルに)記号化しているものと推測する。民具ネットワーク形成のためには、標準記号化が必須である。

Cは台帳そのものであるが、資料管理そのものには十分であろう。民俗研究情報としてはC⑤を図2に沿った再区分が必要に思える。これはB⑩の所見においても同様に考える。

Dは十分な項目が盛り込まれている。しかし、採集先が明白で、比較的近年に使用された民具であるなら記述可能かもしれない。

採集先不明でかつすでに10年も前に採集され、民具の採集・調査・管理者が代替わりした民具は、ほぼ考古学の発掘資料と同様な状況（情報抽出が表面的・物理的側面からしか抽出不能）となっているのではあるまいか。

Bの記述情報が多くの民具管理機関に共通している項目ではなからうかと推測する。

(2) 項目と記述情報の問題についての考察

民俗研究として民具に含まれ、かつ調査・記述すべき情報は図2で示し、2章、3)に示した情報構造モデルに沿ったものであると考える。それに一番近い民具記述台帳が本章、2)で示したDである。しかし上記の(1)で示したように、全国に多く収納されている現実の民具に対する調査記述情報の大半は本章、2)のBに近いのではなからうかと推測する。BにおいてもCにおいても、事象空間における(g)製作(技術、材料、製作者)、(f)利用についての情報は、各情報の区分はないが、断片的にはあれ、記述されている。

民具情報統合化における標準メタデータ(データのためのデータ)設定に関しては、本論に至る経緯においては、2章、3)の情報構造に沿った項目設定が必要ではないかと考える。

また、(h)目的・用途であるが、茶碗のように、普段の飲料容器として作成されたものが、(f)においては、仏具として利用されている場合など(石油缶なども同様に)、(h)の空間と(f)の空間では差異が生じている場合も少なからず存在するはずである。本研究班において作成された標準民具名称においては、あくまでも(h)の空間が対象であり、(h)における情報と、実利用の(f)における利用用途も別個に必要なかもしれない。

また、今回の比較のための目録・台帳は4種類のみであり、大きな結論を得るには、少なすぎるサンプルである。全国の民具情報ネットワークを構築するには、標準民具メタデータの設定が必須である。また、データベースデータとしての記述用語、記述形式や記述レベルの標準化あるいはガイドラインの設定も必須である。このためにはさらに全国の民具台帳記述の実態を確かめる必要がある。これを遂行するには特に民具台帳記述管理者との2~3年の共同研究が必要となる。

4. まとめ

1) 民具メタデータ形成と情報組織化へ向けた考察

2章では民具の経てきた時系列空間を基軸に、情報の構造化モデルを考察し、3章では4種類ではあったが、実際が目録・記述台帳をもとに、適合可能かどうかの比較分析を行った。3章でも述べたように、比較目録・台帳の種類が少な

く結を得るまでには至らなかった。

「はじめに」で述べたように、種々問題は抱えているが、1980年代~1990年代とは異なり、インターネットやパソコンの普及により、技術的には各機関相互の画像情報も含め情報共有化は手軽に可能な状況ではある。しかし我が国の各機関で収集している民具ネットワークを形成するには、目録・台帳の項目・記述が各機関でばらばらのままでは、非常に不効率であり、不可能かもしれない。これを効率よく可能にするには、

①標準民具メタデータの項目設定

②各項目に記述するための記述情報(用語、記述の枠組み)に関する共通ガイドラインの設定

この二つが必須である。①も②も現実に沿わない新規作成では民具ネットワークに参加する機関の担当者の負担が激増することは明らかであり、各機関ですでに多くの記述済みの民具台帳が存在しているはずである。本論文では特に①に関して結論を得るには至らなかったが、方向性についてはしめせたものとする。

また、世界はインターネットの普及で特に博物館、図書館、文書館等の分野では、資料情報の地域的情報共有化や国際共有化の方向にある。このため、資料に関する標準メタデータが設定、あるいは国際提案されている。たとえば、

〈地域の分野横断情報共有システム〉としては、

・英国のGRIDシステム

・EUを包括するEuropeanaシステム

・カナダのCHIN(Canadian Heritage Information Network)システム

・韓国の国家知識情報資源システム

・台湾のNDAP(National Digital Archives Program)システム

・etc.

がすでに構築されており、各資料のメタデータが国家標準として設定されている。

〈分野としての国際メタデータ標準〉は、

・W3C(World Wide Web Consortium)からダブリン・コア・メタデータセット(Dublin Core Metadata Set)。世界の諸分野ですでに使用されている。

・博物館分野ではICOM-CIDOC(The International Committee for Documentation of the International Council of Museums)からIGMOI(International Guideline for Museum Object Information: The CIDOC Categories)の提案。

・図書館分野ではIFLA(International Federation of Library Association and Institutions)からISBD(International Standard of Biblio Description)の提案:現状ですすでに全世界図書館の標準。

・文書館分野ではICA(International Council of Archives)からISAD(International Standard of Archival Description)の提案:欧米先進国はすでに採用。

・etc.

3章の最後でも述べたように、この結論を得るには、上記の課題②までも含めて、特に①は地域標準および分野標準国際メタデータ標準を視野に入れて、本研究班で遂行したレベルの共同研究が必要であろう。

なお、目録・台帳の比較資料について、(元)黎明館学芸課長の川野和昭氏、滋賀県立琵琶湖博物館の辻川智代氏、川崎市市民ミュージアムの高橋典子氏、武蔵野美術大学の石野律子氏にご協力いただいた。深く感謝申し上げます。

2) 民俗分類についての諸課題

民俗分類(資料3a・b参照)については本研究班でも約2年間ほど議論したが、あまりにも問題が大きすぎ、かつ本研究班のテーマからも大きくそれ、本研究年限では結論を得る見通しもないので議論を打ち切ることにした。が、ここでは多くの機関が採用している文化庁推奨の民俗分類諸問題について紹介するものである。

民俗分類については従来から国内外でそれぞれの研究者の研究視点から様々な分類が提案されてきた。現在、国内の多くの民俗資料を扱う機関では文化庁推奨の大分類、中分類、小分類からなる3段階の民俗分類を採用し、使用している。ただ、3章、2)におけるBのように、機関等によっては、特に構造物等の場合や資料の細部表現や具体性を示すために、小分類の下に細分類を設定している場合が多い。

ただ、文化庁推奨の民俗分類は現在社会とはいくつかの矛盾も含まれている。いずれ現在社会で使用されている道具も(多くは工業大量製作品)民具となるのは明らかであり、この対応も再整理する必要があるものと考えられる。

韓国では1990年代前半に、国家の博物館資料情報の電子計算機による情報管理を遂行する計画において、我が国の文化庁推奨の民俗分類をベースとして、民俗分類の矛盾や現代社会適合を図り、『博物館遺物管理電算化のための遺物分類標準』を国家民俗分類標準として設定した。我が国の民俗分類と大きく違っているのは以下の点である。

- ①大分類の“民俗知識”はカテゴリ化が曖昧であり、存在しない。
- ②大分類の“交易”は大分類の“生産生業”における中分類の“商業”に含まれる。
- ③新たに大分類の“科学技術”を設定。
- ④大分類の“人生儀礼”と“年中行事”を含めて“社会生活”を設定。
- ⑤大分類に“軍事”が存在する。

資料2aに韓国の『博物館遺物管理電算化のための国家標準化』分類体系概要、資料2bに『韓国遺物管理電算化のための国家標準』の概要を示す。

本課題については、問題提起と、参考資料(資料2a・b)の紹介にとどめるものである。

参考文献

- (1) 鹿児島県歴史資料センター黎明館：『鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵目録(Ⅲ)－産業(Ⅰ)』、1986年3月
- (2) 鹿児島県歴史資料センター黎明館：『鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵目録(Ⅳ)－産業(Ⅱ)』、1987年3月
- (3) 八重樫純樹：「民謡のデータ構造に関する基礎的考察」、昭和62年～63年度文部科学省科学研究費補助金総合研究『民謡の分類法そのデータベース化に関する総合的研究』(代表：国立歴史民俗博物館教授・小島美子、課題番号：62301042)研究成果報告書、pp. 69～80、pp. 91～102、1988年3月
- (4) 鹿児島県歴史資料センター黎明館：『鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵目録(Ⅵ)－民俗』、1989年3月
- (5) 八重樫純樹、倉田是：「事例データをもとにした情報検索実験といくつかの課題」、国立歴史民俗博物館研究報告第30集、pp. 207～248、1991年3月
- (6) 八重樫純樹：「歴史系資料・事象情報化に関する研究～その経緯と基礎的課題～」、情報知識学会誌、Vol. 2、No. 1、pp. 9～12、1991年12月
- (7) 八重樫純樹、倉田是：「事例をもとにした歴史系資料情報化に関する研究」、国立歴史民俗博物館第53集、pp. 279～319、1993年11月
- (8) 亦野あゆみ：「民俗資料のデータベース化に関する基礎的研究」、神奈川大学大学院歴史民俗資料学専攻修士論文、p. 47、1998年1月提出
- (9) 琵琶湖博物館：『琵琶湖博物館資料目録13号－民俗資料1・琵琶湖水系漁撈習俗資料(1)』、2006年3月
- (10) 能登正人、木下宏揚：「オントロジー理論に基づく非文字資料のデータ化可能性の検討」、『非文字資料とは何か～人類文化の記憶と記録～』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、pp. 150～162、2006年6月
- (11) 吉村裕一：「民俗資料の情報化に関する研究」、神奈川大学大学院歴史民俗資料学専攻修士論文、p. 58、2007年1月提出
- (12) 八重樫純樹：「知識情報資源基盤と横断的アーカイブズ論研究」、『明日の図書館情報学を拓く』、樹村房、pp. 72～89、2007年3月
- (13) 木下宏揚：「民俗学のための情報発信」、『神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議』第4号、pp. 16～52、2008年3月
- (14) 山野邊溪、八重樫純樹：「祭りデータベースの研究調査」、情報知識学会誌、Vol. 120、No. 1、pp. 221～226、2010年4月
- (15) 八重樫純樹：「民俗資料の情報構造モデルの基礎的研究」、国際シンポジウム報告書Ⅱ『“モノ”語り～民具・物質文化からみる人類文化～』、国際常民文化研究機構・神奈川大学常民文化研究所、pp. 37～44、2011年7月

【資料1】

柏市吉田邸民具調査情報カード

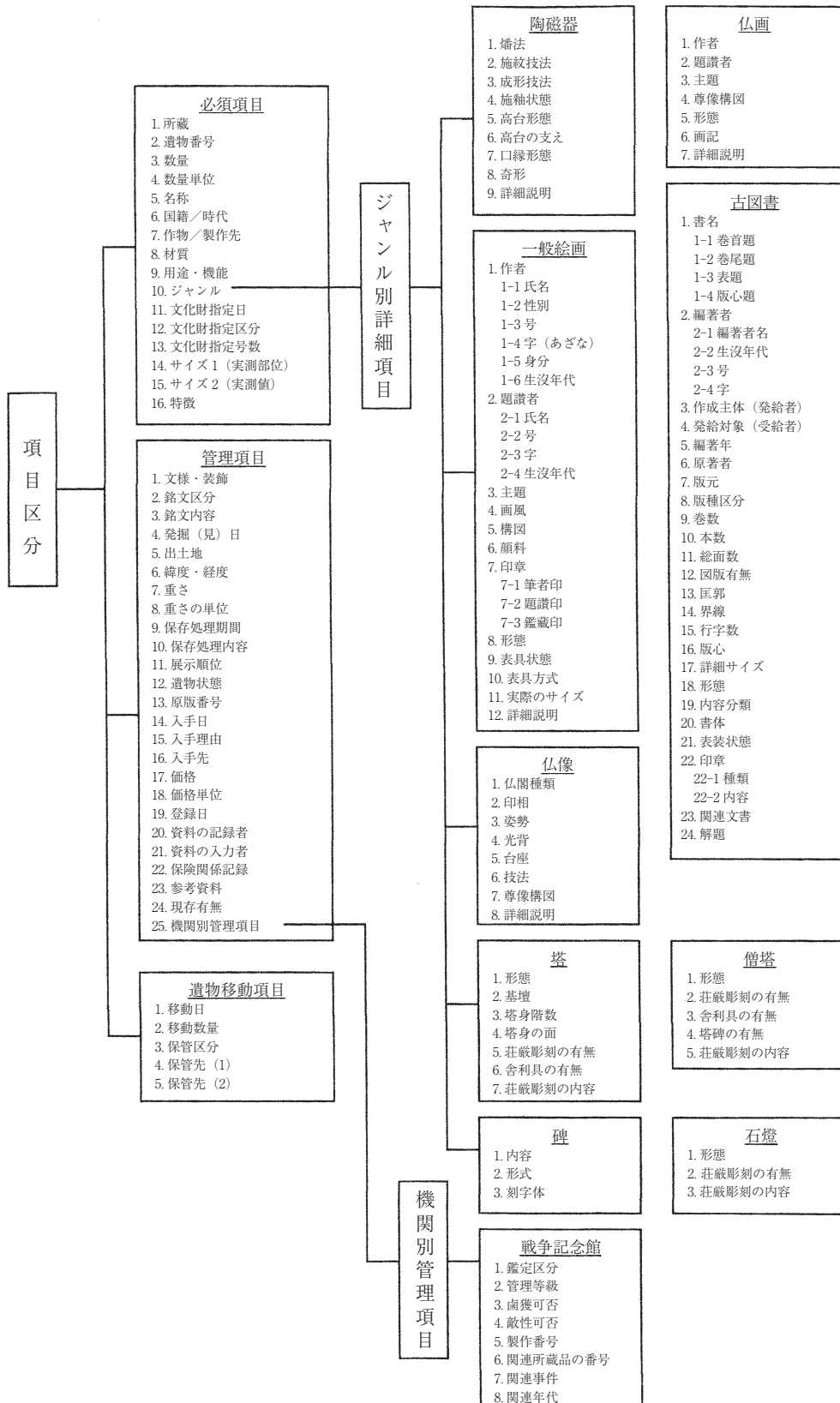
記入：平成23(2011)年 月 日

民具番号	YS	寄贈目録 番号(受入)	—	用途分類		機能分類	
一般名称				地域名称			
形式	単体	一对	セット物	揃物	収納	箱/袋(有無)	包紙(有無)
植物	材質	木() 竹() 草() 藁() 他()					詳細情報 墨書 部分名など 収納箱番号() 収納物番号(~) 被せ蓋/置き蓋(二方棧) 摺蓋/印籠蓋
	部分	基幹 枝 蔓 樹皮 葉 花 実 根 茎 樹液					
	製作法	剝物 挽物 曲物 結物 削物 指物 組物 編物 張子()					
	編み方	菊底 網代底 筏底 四ッ目編み 六ッ目編み ござ目編み 網代編み 松葉編み 麻の葉くずし 他()					
	形状	棒 板 自然木 灰 箱 蓋:(有・無) 釘(竹釘・木釘・) ヒゴ 桶(桎目) 樽(板目)/蓋:(有・無) 籠/蓋:(有・無) 笊 箕 篩 他()					
土石	材質	土() 石() セメント ガラス 他() 陶器(素焼・施釉) 焼締 磁器(絵付・型染・)					
金属	材質	鉄 鋼 銅 錫 青銅 真鍮 アルミニウム ジュラルミン ステンレス 銀 銅合金 他()					
	製作法	鍛造 鑄造 打出し プレス 他()					
	形状	板 針金 釘(和釘・洋釘) 鉄 網 刃 他()					
動物	種類	馬 牛 豚 象 鳥 魚 貝() 部分 骨 角 牙 毛 皮 革 羽 根					
合成樹脂	材質	プラスチック・セルロイド ゴム ビニール ナイロン 他()					
繊維	材質	木 麻 木綿 絹 人絹 羊毛 棕櫚 藁 合成繊維 ()					
	形状	緯(ワ)系 紐 縄 綱 網 布 端切 刺子 不織布/和紙 洋紙/反故紙 新聞紙					
	織物	無地 縞 格子 緋縮み 上布 紬 染物 藍染 柿渋染 他()					
	色	紺 紅 生成り 他() 紋様 家紋 文様()					
表面	仕上げ	漆塗(黒漆・朱漆・茶漆・透漆・) 漆に加飾(有・無) 柿渋 墨 ベンガラ 錫引き 珪瑯 アルマイト メッキ(ブリキ・トタン・金・銀)					
情報	墨書 朱書 焼印 刻印 陽鏤 陰刻 刷板文字 黒印(黒・朱・青) 木版摺 印刷() 付札 貼紙 プレート ラベル(シール) 成形による(凹文字・凸文字) 他()						
状態	異常	無し 破損 欠損 亀裂 緩み 弾け 虫害 獣害 カビ 硬化 軟化 劣化 剥離 退色 汚れ シミ 腐食 フケ化 チョーク化 反り 加工痕()					
	使用痕	無し 油シミ 摩耗 手垢 付着(煤・泥) キズ 擦切 ほころび 継接					
保存処理内容	修復処理内容(修繕)	処置日	年 月 日				
		処置者	(又は旧所蔵者)				
使用者	使用地	柏市花野井			使用年代	江戸・明治・大正・昭和・平成	
大人・子供・男・女・共同体・動物()						年頃	
製作者	製作地				製作年代	年頃	
入手方法	購入(既製・認)・借用・もらう(どこから)・自製						
由来							
用途	(ハレ・ケ)	併用具					
使用法	いつ どこで だれが どのように			燃料	(薪・炭・石炭・練炭・油・蠟燭・石油・ガス)		
備考				動力	エネルギー(人力・畜力・水車・電気・ゼンマイ)		
調査者メモ							
寸法	mm	W	D	H	重量	g	容量
	寸法	幅	奥行	高さ	買目		斗升合

写真撮影 情報カード記入 カード確認 データ入力 再調査(要・不) 別紙カード
 記入者氏名() 神奈川大学大学院歴史民俗学科学研究科

【資料 2a】

韓国の「博物館遺物管理電算化のための遺物分類標準化」(2003年12月版)分類体系概要 (訳: 林淑姫氏)



【資料 2b】『韓国遺物管理電算化のための国家標準』の概要

II. 必須事項 (16 項目：韓国全博物館の必須記述項目)

1. 所蔵 (大分類、中分類、小分類)

【大分類】

01 国立、02 国立 (001 民俗)、03 公立、04 法人・私立、05 学校、06 その他、07 外国

2. 遺物番号 (主番号 <6 バイト>、詳細番号 <3 バイト>)

3. 数量 (主数量 <6 バイト>、副数量 <6 バイト>)

4. 数量単位 (1 段階コード化 <2 バイト>)

01 点、02 括、03 組、04 冊、05 隻、06 連、07 拾、08 ツール、09 帖、10 種、11 軸

5. 名称

- ・第一有形 (銘文+材質+色合い+技法+付加物+形態+機種 <用途>)
土器、金属、馬具、銅鏡、陶磁器、文房具、木漆工芸、瓦磚、武器利器など
- ・第二有形 (元所蔵+銘文+現所蔵先+固有名詞化された名称+材質+器種 <用途>)
銅鐘、金庫
- ・第三有形 (元所蔵先 <寺院> + 形態+材質+塔の固有名詞)
塔婆 (浮き図)、碑
- ・第四有形 (銘文+材質+主題+形態)
仏像
- ・第五有形 (作者+主題 <タイトル、内容>)
絵画、書道、書籍
- ・第六有形 (土用、土偶+形態 <主題>)
土用、土偶
- ・第七有形 (固有名詞)
民俗品、服飾

6. 国籍/時代 (世界を対象)

大分類 (韓国外務省の 6 大州別修交国家分類：国籍 <2 バイト>)、中分類 (国籍別時代 <2 バイト>)、小分類 (絶対年度)

7. 製作/製作先 (20 バイト)

8. 材質 (主材料 <1 次>、副材料 <2 次>、副材料 <3 次>：全材料を記述する)

【主材料】

01 金属、02 土製、03 陶磁器、04 ガラス・宝石、05 草製、06 木、07 骨角貝甲、09 紙、10 毛皮、11 糸織り、12 種子、13 鉱物、14 化石、15 その他

9. 用途・機能 (4 段階コード化：2 バイト)：韓国民俗分類

【大分類→中分類の例】

- ・01 衣 → 01 冠帽、02 衣類、03 帯・駒、04 履物、05 装身具、06 冠・服函、90 関連図書、99 その他
- ・02 食 → 01 飲食器、02 炊事、03 加工、90 関連図書、99 その他
- ・03 住 → 01 建築物、02 建築部材、03 生活用品
- ・04 産業・生業→ 01 先史生活、02 農業、03 漁業、04 林業、05 畜産、06 養蚕蜂、07 鉱業、08 狩猟、09 工業、10 商業、90 関連図書、99 その他
- ・05 交通・通信→ 01 交通運搬、02 馬具、03 車付属具、04 通信、05 信号、90 関連図書、99 その他
- ・06 科学技術→ 01 天文、02 地理、03 医療、04 印刷、05 印章、06 板類、99 その他 (電子製品等)

- ・ 07 社会生活→ 01 儀礼生活、02 社会制度、03 記念、04 儀典、05 社会運動、99 その他
- ・ 08 宗教信仰→ 01 仏教、02 儒教、03 民間信仰、04 キリスト教、99 その他
- ・ 09 文化芸術→ 01 文献、02 音楽、03 書画、04 彫刻、05 工芸、07 舞踊・劇、08 遊び、99 その他
- ・ 10 軍事 → 01 筋力武器、02 火薬武器、03 装備、04 服飾、05 標識識別、06 旗幟、07 文書・書簡、99 その他
- ・ 99 その他→ 01 資料、02 模型、03 用途不明、04 定期刊行物・他の図書、99 その他

10. ジャンル (2段階分類)

【大分類→中分類】

- ・ 01 先史・古代→ 99 その他
- ・ 02 古美術国学→ 01 陶磁器、02 一般絵画、03 仏像、04 仏画、05 古図書、06 塔、07 僧塔、08 碑、09 石塔、99 その他
- ・ 03 民俗品→ 99 その他 (民俗品)
- ・ 99 その他

11. 文化財指定日 (年〈4バイト〉、月〈2バイト〉、日〈2バイト〉)

12. 文化財指定区分 (1段階コード化〈2バイト〉)

【大分類】

- 01 国宝、02 宝物、03 重要民俗、04 市指定、05 道指定、06 その他の指定

13. 文化財指定号数 (非コード〈5バイト〉)

14. サイズ1 (1段階コード化〈2バイト〉)

【大分類】

- 01 口縁径、02 内径、03 直径、04 穴径、05 胴径、06 底外径、07 底内径、08 最大径、09 台径、10 蓋径、11 長さ、12 総長さ、13 現在長さ、14 袋長さ、15 横、16 縦、17 幅、18 横幅、19 層幅、20 高さ、21 総高、22 現在高さ、23 蓋高、24 厚さ、25 仏身高、26 頭高、27 肩幅、28 膝幅、29 光背幅、30 台座高、31 台座幅、32 フェジヤン (チョゴリの袖長さ)、33 背長、34 身幅、35 胴回り、36 現在径、37・38 現在厚さ、39 軸長、40 高台高、41 周縁幅、42 周縁厚さ、43 軸高、44 現在幅、45 台座径、46 子房径、47 子房高、48 チンドン (チョゴリの肩から脇までの幅)、49 マルギ幅 (チマヤパジの腰の部分にめぐらした帯状の布幅)、50 紐幅、51 紐長、52 足長

15. サイズ2 (数値〈2バイト〉)

16. 特徴 (非コード〈400バイト:200字原稿用紙1枚分〉)

- 割れ目、破損、腐食、変色、色焼け等:遺物状態とともに特徴的な内容

Ⅲ. 管理項目 (25項目)

Ⅳ. 移動項目 (5項目)

Ⅴ. ジャンル別項目 (資料図参照)

- 陶磁器 (9項目)、一般絵画 (12項目)、仏像 (8項目)、仏画 (7項目)、古図書 (24項目)、塔 (7項目)、僧塔 (5項目)、碑 (3項目)、石燈 (3項目)

表 1-1 琵琶湖博物館所蔵民俗資料分類

大分類	中分類	小分類	大項目		
1. 衣食住	A. 衣	1. かぶりもの	(1) 笠 (2) 帽子 (3) その他		
		2. 着物類	(1) 長着 (2) 袴 (3) 羽織 (4) 褌袴 (5) 丹前、半纏、野良着 (6) でんち (7) 帯 (8) 帯付属品 (9) 半衿 (10) 前掛 (11) 手巾 (12) 袴・股引 (13) 脚絆 (14) 脛巾 (15) 洋服		
		3. はきもの	(1) 足袋 (2) 下駄 (3) 草履 (4) 草鞋 (5) 藁沓、かんじき (6) 靴		
		4. 雨具・防寒具	(1) 合羽、道行 (2) 蓑		
		5. 化粧・結髪用具	(1) 化粧用具 (2) 結髪用具		
		6. 洗濯・裁縫用具	(1) 洗濯用具 (2) 裁縫用具		
		7. その他	(1) 布		
		B. 食	1. 食料		
			2. 貯蔵用具	(1) 穀物貯蔵用具 (2) 水貯蔵用具 (3) その他貯蔵用具	
			3. 炊事用具	(1) 釜 (2) 茶釜・薬罐 (3) 鍋 (4) その他鍋 (5) 鍋敷・鍋棚 (6) 蒸籠 (7) 洗米用具 (8) 碗上げ籠	
			4. 調理・調整用具	(1) 調理用具 (2) 半匳 (3) 紅鉢 (4) 搦鉢 (5) 餅つき用具 (6) 製粉用具 (7) 豆腐製造用具 (8) その他調理・調整用具	
			5. 保存・加工用具	(1) 鮭桶 (2) 漬物桶 (3) その他の保存・加工用具	
			6. 醸造・製造用具	(1) 味噌製造用具 (2) 醤油製造用具	
			7. 嗜好品用具	(1) 喫茶用具 (2) 喫煙用具 (3) 飲酒用具	
			8. 飲食器	(1) 飯櫃 (2) 番 (3) 重箱 (4) 膳 (5) 碗 (6) 碗・鉢・皿 (7) 杓子 (8) 箸・匙 (9) 弁当箱 (10) 盆	
			C. 住	1. 屋敷構え	
				2. 住居	(1) 屋根瓦 (2) 竈 (3) 井戸 (4) その他
				3. 附属建物	(1) 風呂 (2) 便所 (3) その他
				4. 家具・調度	(1) 箆笥 (2) 長持・挟箱 (3) 行李 (4) 水屋 (5) 机 (6) 座具 (7) 壺 (8) 籠 (9) 提灯 (10) 行灯 (11) 火鉢 (12) 炬燵 (13) その他
				5. 寝具	(1) 寝具 (2) 枕 (3) その他
				6. 建築習俗用具	
				7. 防護用具	(1) 雪かき
				8. その他	(2) 害獣駆除用具 (3) その他

大分類	中分類	小分類	大項目	
2. 生産生業	D. 自然物採集	1. 採集・運搬用具	(1) 採集・運搬用具	
		2. 処理・加工用具	(1) 処理・加工用具	
		E. 農耕	1. 焼畑用具	(1) 鋤 (2) 鋤 (3) 塊割 (4) 鋤簾 (5) 犁 (6) 馬鋤 (7) 田下駄・桶杓 (8) 苗代用具 (9) 田植棒・田植縄 (10) 苗籠 (11) 土入機 (12) 掘串
			2. 耕作用具	(1) 水桶 (2) ゴイ (3) 竜尾車・竜骨車 (4) 踏車 (5) その他揚水用具 (6) 施肥用具 (7) 草刈爪・鎌 (8) 除草機 (9) 防虫用具 (10) その他管理用具
			3. 管理用具	(1) 収穫用具 (2) 千歯拔 (3) 足踏脱穀機 (4) 脱穀棒 (5) 豆脱穀用具 (6) 麦脱穀用具 (7) 唐箕 (8) 万石通 (9) 篩 (10) 箕 (11) 乾燥用具 (12) 土臼 (13) 精米用具 (14) 本地鉢 (15) その他収穫・調整用具
	4. 収穫・調整用具		(1) 製茶用具	
	5. その他			
	F. 山樵		1. 山図面・入会文書	
			2. 施設(山小屋・炭焼窯)	
			3. 山樵用具	(1) 袖用具 (2) 木挽用具 (3) 炭焼用具
			4. 製品	
			5. 搬出用具	(1) 搬出用具
	G. 探鉱・冶金		1. 施設・設備	
			2. 探鉱・冶金用具	
			3. 運搬・販売用具	
			4. 儀礼用具	
	H. 漁撈		1. 漁具および漁撈関係用具	(1) 陸竿漁具 (2) 定置漁具 (3) 網漁具 (4) 釣漁具 (5) 突漁具 (6) 伏せ漁具 (7) 貝曳漁具 (8) 鴨猟具 (9) その他の漁具 (10) 漁業補助用具 (11) 漁具関係参考資料 (12) 漁具製作・修理用具 (13) 船 (14) 船関係用具 (15) 船関係参考資料 (16) 船大工道具 (17) 鍛冶屋道具 (18) その他の諸織道具 (19) 保存・運搬・交易用具 (20) 真珠養殖関係用具 (21) その他の水産加工用具 (22) その他
		2. 漁具製作・修理用具		
		3. 船および船関係用具		
		4. 船大工関係用具		
		5. 保存・運搬・交易用具		
		6. 水産・加工用具		
		7. その他		
		I. 製塩	1. 製塩用具	
		J. 狩猟	1. 秘伝書・絵図	
			2. 狩猟用具	(1) 狩猟用具
			3. 処理用具	
			4. 儀礼用具	
		K. 養蚕	1. 飼育用具	(1) 桑摘用具 (2) 給桑用具 (3) 蚕盆・蚕棚 (4) 蚕網 (5) その他飼育用具 (6) 養折機・養
			2. 収穫・処理用具	(1) 収穫用具
			3. 儀礼用具	
	L. 畜産	1. 飼育用具	(1) 牛飼育用具 (2) 牛の鞍 (3) 牛使役用具 (4) 養鶏用具 (5) 養蜂用具	
		2. 伯楽用具		
		3. 儀礼用具		

【資料 3b】

表1-2 琵琶湖博物館所蔵民俗資料分類

大分類	中分類	小分類	大項目		
2. 生産生業	M. 染織	1. 繊維	(1) 繊維 (2) 繊維用具		
		2. 製糸用具	(1) 製糸用具 (2) 綿繰機 (3) 糸車 (4) 総繰機 (5) 糸枠		
		3. 機織用具	(1) 総掛・座繰 (2) 糸枠 (3) 経台 (4) 機 (5) その他機織り用具		
		4. 染料			
		5. 染織用具	(1) 染織用具		
		N. 手細工	1. 原料処理用具	(1) 原料 (2) 縄鉤用具 (3) 柿渋製造用具	
			2. 細工用具	(1) 草鞋作台 (2) 依編機 (3) 篋機 (4) 俵製作用具 (5) その他細工用具	
			3. 製品		
			1. 組合		
			2. 諸織用具	(1) 鍛冶屋用具 (2) 柄屋用具 (3) 仏具屋用具 (4) フリキ屋用具 (5) 瓦屋用具 (6) 屋根屋用具 (7) 木地屋用具 (8) 合羽屋用具 (9) 大工用具 (10) その他諸織用具	
	3. 交通・交易	P. 運輸・運搬	1. 交通・運輸施設		
			2. 運搬具	(1) 牛の鞍 (2) 背負梯子 (3) 背中当・負い縄 (4) 天秤棒 (5) 畚 (6) 籠 (7) 圓持 (8) 手鉤 (9) 風呂敷 (10) 袋	
			3. 車・舟・櫓	(1) 荷車 (2) 田舟	
			4. 旅行用具	(1) 旅行用具	
			5. 通信施設・用具	(1) 通信用具	
			6. 儀礼用具		
			Q. 交易	1. 交易施設	
				2. 商業用具	(1) 商業用具
				3. 計算・計量具	(1) 計算計量具
				4. 梱包用具	
5. 鑑札類					
4. 社会生活		R. 社会生活	1. 共同施設		
			2. 共有道具		
			3. 防災・避難用具	(1) 防災用具	
			4. 警防・刑罰用具		
	5. 家印・印判類				
	6. 贈答・社交用具		(1) 講用具 (2) 袱紗		
	7. その他		(1) その他		
	5. 信仰		S. 信仰	1. 聖地・祠堂	
				2. 神体・偶像類	(1) 神体・偶像類 (2) 神棚 (3) 仏壇
				3. 石塔	
4. 神事・仏事用具		(1) 神事用具 (2) 仏事用具			
5. 神札・護符類		(1) 神札・護符類			
6. 奉納・祈願品類		(1) 奉納札			
7. 縁起物類					
8. 信仰関係服装・用具		(1) 信仰関係服装			
9. 憑霊関係用具					
10. 教育施設・用具		(1) 文房具			
6. 民俗知識	T. 民俗知識	2. 医療・衛生施設			
		3. 薬品・医療・保健具	(1) 医療用具		
		4. 暦・計時用具	(1) 時計		
		5. ト占・まじない用具	(1) 形代		
		6. 規矩・準繩類			
		7. 計算・計量具	(1) 秤 (2) 研 (3) 算盤		
		8. その他	(1) その他		
		7. 芸能・競技他	U. 民俗芸能	1. 施設	
				2. 設備	
				3. 大道具・小道具	
4. 装束					
5. 仮面類					
6. 人形					
7. 楽器					
8. 文書					

大分類	中分類	小分類	大項目
7. 芸能・競技他	V. 競技・娯楽・遊技	1. 施設	
		2. 競技用具	
		3. 娯楽・遊戯具・玩具	(1) 娯楽・遊戯具・玩具
		4. 衣裳・曲譜類	
		5. その他	
8. 人の一生	W. 人の一生	1. 産育施設	
		2. 妊娠・出産	
		3. 生児儀礼用具	(1) 宮参着
		4. 育児用具	(1) 産着 (2) 畚
		5. 七五三・成人祝用具	
		6. 恋愛中の贈答品・縁結びの呪物	
		7. 婚礼用具	(1) 婚礼用具
		8. 厄年・年祝の用具	(1) 厄年・年祝の用具
		9. 葬送用具	(1) 葬送用具
		10. 忌明け・年忌の用具	
		11. 喪屋・霊屋・墓	
		12. 十二月	
9. 年中行事	X. 年中行事	1. 一月	(1) 一月
		2. 二月	
		3. 三月	(1) 三月
		4. 四月	
		5. 五月	(1) 五月
		6. 六月	
		7. 七月	
		8. 八月	(1) 八月
		9. 九月	
		10. 十月	
		11. 十一月	
		12. 十二月	